上田市教育委員会3月定例会会議録

1 日 時

令和7年3月14日（金） 午後3時00分から午後4時20分まで

2 場 所

上田市役所 202・203会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	酒 井 秀 樹
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	大久保 恵子
委 員	木 口 博 文
委 員	萱 津 公 子

○ 説 明 員

小野沢教育次長、龍野教育参事、町田教育総務課長、笠井教育施設整備室長補佐、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、久保田人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、田中中央公民館長、大森川西公民館長、清水第一学校給食センター所長、金田上田図書館長、坂部市立博物館長、小林丸子地域教育事務所長、池田真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長

1 あいさつ

これより3月の教育委員会定例会を始める。

来週18日は小学校、19日は中学校の卒業式が目前になってきている。

各学校のホームページなどを見ると、3年生を送る会、6年生を送る会で在校生が卒業生を気持ちよく送り出そうとする感謝と卒業生が学校を去っていく誇りというようなものが写真とともにコメントが添えられて出ている。

現場の頃を思い出してみるとこの3月の送る会というところで、子ども達が大きく成長していくように思える。

人生の究極の幸せは何だと言った時に「人に愛されること」「人に褒められること」「人の役に立つこと」「人から必要とされること」、まさにこの送る会はこの4つの条件がびたりと合って学校の中がいわゆる幸せで包まれている。

私達現職でいた頃は、本当にこの3月が一番楽しい。

特に、中学校の場合は高校入試が終わってからの1週間というのは、黄金の日々で、幸せいっぱいの気持ちで過ごす時間だったような気がする。

いずれにしても、一番幸せなことを感じる学校がたくさんあったということで、これはここにいる教育委員の皆様と事務局職員のお力のおかげだと思う。

3月の定例会ということで改めて感謝を申し上げて、最後の定例会をお願いします。

2 協議事項

(1) 令和6年度(期末)及び令和7年度(当初)の重点目標及び教育行政評価について

酒井教育長

委員の皆様には、期間の短い中だったが、事前に内容を確認していただいているので担当からの説明は省略させていただく。

資料1-1「令和6年度重点目標」については、10月の定例会で中間報告をさせていただき、今回は期末の報告になる。それを踏まえて、資料1-2「令和6年度上田市教育行政に係る事務の点検及び評価(案)」、資料1-3「令和7年度重点目標」について、御意見等をいただければと思う。

木口委員

資料1-2の3ページ、「確かな学力の育成」についてお聞きしたい。

3の評価の(1)で学力向上委員が、学力向上委員会の内容を自校に持ち帰って授業改善に活かしているということであるが、今年度、学校訪問した中では、いわゆる対話的な学びや多様なものを取り入れた授業がその前の年あたりから見て少し

減っているような感じがした。

いろいろな形で授業改善が行われていると思うが、全体の目標でもある主体的で対話的な学びというところがあるので、今後の展開としてその辺を強化して意識して取り組んでいただきたいと思います。

酒井教育長

資料1-1に関して御意見あればお願いしたい。

大久保委員

「確かな学力の育成（支援策1）」であるが、MIMについての「読み」の向上に一定の成果が見られた、ということであるが、数値的なデータなど分かりやすい表現で、どれぐらいの効果があつたかがわかるといいなと感じた。

支援策2について、展開の今後の課題等というところで質問であるが、(1)「協働的な学び」の場面の活用に課題とあるが具体的にどのような課題なのか。

長田学校教育課長

ICT機器活用のアンケートを行った。その結果、タブレットで児童生徒が物事を自分で調べていくという場面の活用は広がっているが、それを活用してグループで意見を言い合うとか、ICTを活用して画面にみんなの意見を共有させながらディスカッションを行うような場面というのが今のところ、自分が調べることだけに使われてしまっていて、次の協働的な学びで活用されていないという数値が出ている。今後は、協働的な学びのところでどう活用していくのかということで課題とした。

大久保委員

コロナ禍が過ぎて集団で集まっているいろいろなできるようになったこともあってか、タブレット端末を使つての学習が学校訪問に行っても使用頻度が若干下がり気味なのかと感じる。

もっといろいろな使い方をして活用してもらいたいと思うので、こちらからも「授業でこういった使い方ができますよ」など、どんどん活用を進めていただきたいと思います。

もうひとつ、1-②すべての子どもに寄り添う支援の事業評価シートであるが、去年も言ったかもしれないが、なかなか難しいとは思いますが、数値的なデータのようなものが結果として出るといいと思っている。例えば、具体的な取組を見ると横の連

携みたいものがうまく取れたというように読み取れるが、その結果、子ども達に対してどのような良い影響があったのか、こういう結果が得られた、これができなかった、などという事が具体的かつ数値的なデータでわかるといいと思った。

長田学校教育課長

具体的にこうだったという部分は例として提示できるが、その結果として数値的にという部分についてはどのように分析していくのか大事な視点だと思う。連携しただけではなく結果が見えるようにシートに加えたい。

大久保委員

評価として、来年度評価する時にこういう結果が得られたとか、具体的な不登校の人数の増減を数字で出すことは難しいかもしれないが、結果が得られたというところまで表現してあると評価がしやすいと思う。

安達教育長職務代理

資料1-3の「令和7年度の重点目標」の資料で、取組項目というのは多分たくさんある中からこれを選んでいると思うが、どういう基準で選んでいるのか。例えば、上田市で数字として良い成果は出ないかもしれないが、不登校に関わっては本当にいろんな方面で様々やっているのでもう少し目標として出してもいいと思う。

木口委員

重点目標について、「すべての子どもに寄り添う支援」というシート1の部分で、令和6年度では「保護者・学校・民間施設が連携した」ということが挙げられていたが、令和7年度はその文章がなくなっている。何か理由があるのか。

長田学校教育課長

6年度と7年度、特に学校教育についてはあくまでも重点目標であり、7年度重点を置きたい項目を選んだ結果で、決して保護者・学校・民間施設が連携したことが必要でないというわけではない。本当はこの項目にすべて網羅できればいいが、その中でも重点化したというところで今回選ばせていただいた。

今回、7年度に新たに加わった項目がかなりあるが、それは位置付けとすれば、7年度に特に重点化したいものを載せているので、6年度にあって7年度にない項目についても、表記はないが当然意識して取り組んでいきたいと思う。

ただ、見える化する中で、消えてしまった項目について、市民の方が上田市教育委員会はこれを軽視しているのかと思われるようであれば、記載の仕方は配慮したい。

木口委員

実は私のところに年明けになってから結構耳に入ってくる部分として、いじめや不登校に関する相談が増えている。具体的になってしまうが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーには、できるだけ初期段階から第三者的な立場で入っていくような体制なども7年度の中で取り組んでいただきたいと思います。

大久保委員

MIMの成果について、令和7年度はないのか。

長田学校教育課長

木口委員に御回答したことと同じで、決してやらないわけではなく、今回の資料にあるのは重点項目としたものだけを掲載している。

しかし、あったものがなくなるとそういう思いになるということがわかったので再検討する。

大久保委員

目標管理シートの1枚目⑤の「豊かな心と健やかな体の育成」というところで、今年度は、第二学校給食センターで給食試食会などもやっており、コロナが終わって各学校でも自校給食の学校でも給食試食会をやるようになった。

食育というところでは、子ども達への意識の改革というものもあるが、給食は昼食一食で、朝食・夕飯をどうするかというところでは、保護者への食育の意識を高める必要があると思う。取り組みの中に、給食試食会での保護者に対しての食の提案も取り入れていただいて、なおかつその効果を年間通して測っていただいてもいいのかなと思うがいかがか。

小須田学校保健給食課長

今言ったような保護者の方への食育の取組については、来年度もやりたいと思っている。今、第二学校給食センターでは、旧センターを取り壊しており、来年度は外構や駐車場整備を行うので、整備が終わったところで改めて食育に対するイベントについてももう一度検討したいと考えており、重点目標には載せてはいないがそ

ういった取組を続けたい。重点目標のところ記載を加えるか、検討したい。

萱津委員

資料1-1に戻るが、1ページの「②すべての子どもに寄り添う支援」のところと、資料1-2の5ページのところで、実際にスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが入ったことによって、具体的な例は公にはできないが、どのように外部と繋がったのかなど、件数などがわかれば、成果が数値化してとらえられる。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが関わることによって、学校内だけで解決が困難なことが、必要な支援に繋がっていったということが概略でもわかると思う。

それから、まだ32校なので、できればいじめ・不登校を改善するひとつの手立てとして、学校単独ではなく外部との繋がりが強化できていることを見える化して7年度に繋げてもいいのかと思う。

大久保委員

資料1-2の9ページ1-⑥「小中学校のあり方の検討」に関して、「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」があるが、視察で太田市の小中一貫校に行かせていただいたので、今後はそういった学校の形というものも考え検討する時期に来ていると思う。この基本方針について、小中一貫校の取扱い的なものは、今後、改訂していくことは考えなくても大丈夫か。

町田教育総務課長

今ある基本方針だけでは、上田市としてどう具体的に進めていくかというところが見えてこないなので、施設のこと考えながらどういった事業のあり方がいいかということも含めてもう少し具体的なものを今後はつくっていかなければいけないと考えている。視察したことをそのまま取り入れられるかというところ難しいところもあるが、参考にしながら具体的なものをつくっていきたいと考えている。

大久保委員

私の印象だと、今の方針は、小規模特認校が割と重く取り上げられているという印象だったので、その辺りのギャップが出てきている印象がある。今後検討課題にしていきたい。

萱津委員

資料1-1の6ページの「人権同和教育・啓発の推進」について、資料1-2では20ページ、資料1-3では5ページに同じ「人権同和教育・啓発の推進」がある。

去年、講演会に出席させてもらった。コロナ後の対面での講演会はいいと思うが、今後の対応として会場に来ることができない方のためにZoom等のハイブリッドでの配信という方法も検討いただけないかというのがひとつ。

もうひとつは、地域におけるこどもまんなか社会事業として、上田市は「こどもまんなか宣言」をしているので、今年は子どもの人権や子どもに関する権利擁護教育という内容の講演会も検討していただきたい。

子どもの権利を守るための教育で、児童精神科医等のいくつか講義を聞いたが、子どもの自己肯定感を高めるには、まず、大人が意識を変えなければならない。子どもは未熟だからという理由で子どもの意見などは取り上げなくてもいいという古い考え方を変えない限り、子どもが守られないのではないか。子どもの権利を守るための方策が、こども家庭庁から出ているので、可能であれば7年度は差別やいじめ・虐待防止等、子どもの権利に関する講演会をしていただけると、時代に合ったものになるかと思う。

久保田人権同和教育政策幹

ハイブリッドの講演会の御提案ありがとうございます。

コロナの時などハイブリッドを考えてやれるところからやった経緯があり、例えば企業人権教育などは、会社全体がZoomも機能しているので今でも続けてハイブリッドでやる形に変えている。また、コロナの時は公民館でも自治会の皆さんの講座みたいなものをYouTubeに掲げていただいたりした。コロナが終わってからは、一緒に皆さんで集まって共に学ぶというような形の方が効果が高いのではないかと、今はやっていない。

私どもも今後そういった方法は必要だと思っている。長野県人生男女共同参画課が行っている人権フォーラム、人権フェスティバルは既に配信という形になっている。ただし、講師の方の知的財産的なことでできないというようなこともあるので、そういったことも考えながら進めていきたい。

子どもの人権については、確かに大人の意識が変わらないと子どもの人権を守れないというもおっしゃる通りで、「こども大綱」にもそのようなことが書かれていたと思う。

講演会の内容については、子どもの人権を取り上げることについて検討させてい

ただきたいと思うが、地域におけるこどもまんなか社会については、子どもを上から教え、指導するというような感覚がまだたくさんあるので、そうではなく、子どもの意見を聞き自治会活動などに参加してもらうことを自治会の皆さんにお話ししながら進めるようにしたいと思う。

大久保委員

資料1-2の17ページ「郷土の歴史、文化、先人、偉人の業績等を知る機会の創出」について、様々な展示や講座を企画していただき、今年もいくつか行ってみたが、来館された方が「別の企画も見てみたいな」とか「次も来てみよう」とか思うような企画展を来年度もぜひお願いしたいと思う。専門家の方の御意見を伺って展示の仕方を工夫してもいいのかなと思った企画がいくつかあった。

坂部上田市立博物館長

確かに、訪れる方がいつ来ても同じ展示だというのが、博物館ではあまり良くないと思い、日々学芸員とも相談をしながら、展示の手法や企画展のテーマなどを広く皆さんの興味のあるものを取り上げていこうという話はしている。

来年度においても、多くの企画展、講座を計画しているので、いただいた意見を参考にしながら検討したい。

大久保委員

資料1-2の23ページ、「図書館サービスの充実」であるが、花月文庫のアーカイブ化など、貴重な資料をまとめたり、一般の方に公開するための手順を進めていると思うが、ぜひこういったことが市民の方が見ることができる、一般の利用者の方々にそのサービスが行き届くものになってもらいたいと思うのでよろしくお願いしたい。

金田上田図書館長

貴重資料に関しては、実際、現物のものを見ていただく機会ということで7年度には職業の紹介展などを予定している。

重点目標のデジタルアーカイブ化事業についても、デジタル化したものについてできるだけ多くの人に御紹介できるような機会を作ることを検討している。

酒井教育長

それでは、本日の御意見を参考にしながら調整させていただくことでよろしいか。

○全員了承

(2) 学校における働き方改革推進のための取組について（学校教育課）

○資料2により長田学校教育課長説明

学校における働き方改革推進のための取組について、例年、年度末にこの取組状況の成果・報告、そして来年度の目標を報告、決定させていただいている。

上田市教育委員会では、平成30年3月に学校における働き方改革推進のための基本方針を策定し、教員が授業づくりや指導に専念できる環境づくりのため、具体的な取組、教員の勤務時間の上限に関する方針及び学校閉庁日の実施等を定め、評価指標に対して検証を行い、目標を定めている。

今回、令和6年度の目標に対する結果を報告するとともに、令和7年度の目標、学校閉庁日を次の通り決定したいというものである。

令和6年度の結果が1である。大きく評価指標3点示させていただいた。

①として、教員の時間外勤務が、月45時間以下の学校について、市内全ての小・中学校の目標にしたところ、結果として、右側に令和3年度から経年で示している。測定方法としては、12月に県教育委員会からの調査があり、12月の定点観察調査となるが、12月の時間外勤務が月45時間以下の学校について例年統計をとっており、令和6年度は32校ということで増えてきている。校務支援システムであったり、昨年度は中学校にデジタル採点システムを導入したりということでその成果がひとつ結果として表れていると捉えている。

②③は研修会の精選、調査の精選ということで削減をしていきたいということで掲げているが、会議研修会については若干減少であるが、基本的には40件前後で推移している。また、調査に関しても50件前後で推移しているという状況である。会議も集合研修からオンラインを使った研修にシフトしてきているが、全国的にICTの活用等において、授業力、活用力を高めていくために、先生方に対しての研修が必要ということでやむを得ない研修等もあるが、その開催方法を見直すことで効率化を図っている。

調査についても五月雨式にやるのではなく、まとめてやるなど工夫をしている。教育委員会では学校教育課が一番多いが、例年この時期にやっているのも今年もという文化がまだ少し残っており、学校からもできるだけ調査集約してやって欲しい

という要望も聞いている。これについては、教育委員会事務局内においても徹底したいと考えている。

それを受けて令和7年度の目標である。基本的にはまだ目標に対して大幅な改善等が見られない状況なので、引き続き同様の目標を掲げて削減精選を図っていきたいと考えている。

次に、学校閉庁日を(2)で示させていただいた。令和7年度の夏季休業中による学校閉庁日は8月10日から16日までの7日間としたいと考えている。

大久保委員

質問が2つある。結果の②の会議のうち、7件はオンライン開催というのは令和6年度の会議が7件オンラインということによろしいか。

長田学校教育課長

そうです。

大久保委員

閉庁日に関しては今までと同じなのか。増減はあるのか。

長田学校教育課長

基本的にはお盆前後の7日間ということでカレンダーを見ながら記載しているが、日数に関しては例年通り7日間としている。

安達教育長職務代理

質問であるが、結果から今年についても「12月」というのは、何か訳があるのか。

多分、月別の超過時間数を調べてみると、8月が一番少なくて、3月、12月というのは2番目だと思う。だから、そこを拾った訳は何かなということがひとつ。

それから、意見として、研修の精選や調査の簡素化については賛成である。以上である。

長田学校教育課長

一番多い4月から7月の時間外勤務の集計もとってある。その数値についてはデータを持っているが、12月にした理由というのは、県教委もこの数値で公表している関係があるのでその整合性で12月とさせていただいたところである。

木口委員

こういう取組をしていただきたいが、教育委員会主催の研修会というのは、参加者を特定して行っている研修会ということか。

例えば、全教員対象とか、教頭先生対象とか、主任の先生対象とかそういうことなのか。

長田学校教育課長

全教職員を対象にした研修は本当に少ない。夏休み中に不登校支援を学ぶ研修や情報教育を学ぶ研修で全教職員を対象として集中的に行っているが、他の研修会は木口委員がおっしゃられたように、専門部会、例えば校長会や上田市だと学力向上委員会、事務担当者の研修会、情報教育主任会ということで、その校務分掌等にあった方々を集めての研修会ということで目的がかなり限定的な研修会となっている。

木口委員

いわゆる自由参加のような研修会は教育委員会主催のものとしてはいいのか。

長田学校教育課長

教育委員会としてはいい。

木口委員

個人的に研修会に参加することは、当然、先生の中であると思うが、上田市としてどういうスキルを高めて先生を増やしたい、という考えがあるならば、先生方のスキルアップに繋がるような研修会も教育委員会が絡んで、そういう研修会をやってもいいのではないか。いわゆる出なければならぬ研修という位置付けではなく、先生方の意欲をかき立てられるような研修会があってもいいのかなと思った。

それと、もう一点、簡素化の部分も大事で、簡素化については手続の簡素化みたいなものもICTを使ったものとかで、今まで30分かかったものが15分でできたり、そういうところの簡素化にも取り組んでいただきたい。

龍野教育参事

付け加えさせていただきたい。

今年2つ、木口委員がおっしゃられたような取組をしている。それは自動採点システムが中学校に入って、夏休みに採点システムを使う研修会に学校を回って自由

参加の研修を各中学校単位でやらせていただいた。

もうひとつはロイノートを教育支援の方法で協働的な学びをさせるために、使い方についての自由な研修会を1月に行い、かなりの参加者がいた。

酒井教育長

続けて何かあるか。よろしいか。ただいまの件については、今の様にお願ひできればと思う。研修の部分に関しては、教育委員会はもちろんであるが、教育会の方でいわゆる自主研修の方はすみ分けをさせていただき、自主的な研修を提案していただくということもやっているなのでその部分と合わせながら考えたいと思う。

○全員了承

(3) 学校職員の勤務時間等に関する例規改正について（学校教育課）

○資料2-2により長田学校教育課長説明

今回、改正をお願いする例規は「学校職員の勤務時間等に関する規程」である。

改正理由であるが、令和7年4月から長野県は、仕事や育児、介護等との両立を支援する、いわゆるワークライフバランスの支援、また、職員がその能力を十分に発揮する効率的に勤務できる職場環境を整備するため、選択制的に週休3日も可能とするフレックスタイム制を新設するための条例所要の規程の改正が行われた。

県費の教職員が本制度を利用するには、県での条例改正に加え服務監督権限を有している市町村教育委員会においても関係例規の改正が必要となってくる。そのため、今回、上田市教育委員会が定める規程の改正をお願いしたいというものである。

改正内容は、大きく3点ある。

まず、勤務時間であるが、現行、学校教職員の勤務時間は1日当たり38時間45分を超えない範囲で学校長が定めるとされている。それを4週間以内の週を単位とする期間につき、1週間を平均して38時間45分となるよう割り振ることができると改正するものである。いわゆるフレックスタイムを導入するものである。

次に、勤務時間を割り振らない日として、現行の日曜日と土曜日を規程していたが、場合によっては選択的な週休3日も可能となるということなので、日曜日と土曜日のほか、勤務時間を割り振らない日を設けることができる改正である。

最後に、休憩時間について、一斉付与ではなく申告を考慮して、休憩時間を置くことが適当であるという場合は、その時間に限らず別に定めることができるという改正である。

資料に具体的に記載してある。基本的にフレックスタイムも可能であり、週休3日も可能であるが、取りたいという学校職員・教職員が、学校においては学校長、給食センターにおいては給食センター長に申し出を行い、公務の運営に支障がないと認める場合に同様の取り扱いができるというものである。

改正に伴う影響は、この制度を利用する教職員の皆様にはワークライフバランスの推進また家庭の様々な状況に応じて、弾力的な勤務時間の適用が可能となるのでかなり影響が大きく、働きやすい職場に繋がると考える。

また、職場に関しては、学校長、給食センター長が公務に支障がないと認める場合に認めることができる制度となっているので学校運営、給食センター運営について大きな影響がないものと捉えている。

4月1日から施行させていただきたく、教育委員会の規程改正をお願いしたい。

安達教育長職務代理

改正理由や例規の趣旨には賛成である。しかし、実際、運営していくことになる
と育児短時間勤務の時にもあったように、間に立つ校長先生が大変な御苦労されると
思うので、ぜひ教育委員会でも話を聞いていただきバックアップをお願いしたい
と思う。

酒井教育長

続けて御意見あるか。よろしいか。

○全員了承

(4) 浦里小学校及び川西小学校学校運営協議会委員の任命について（学校教育課）

○資料3により長田学校教育課長説明

上田市学校運営協議会規則第6条第2項の規定により、教育委員会はそれぞれの小学校の学校運営協議会の委員を任命することになっている。

そのため、来年度の浦里小学校と川西小学校の学校運営協議会の委員を記載の通りの方に任命をさせていただきたい。

委員の定数は8名以内、委員の任期は1年で教育委員会の任命となっている。

なお、記載の浦里小学校の一番下が未定であるが、これは学校長になるため人事異動が公表されたところで新たな学校長に入らせていただく。

川西小学校の一番下も学校長となっているが、同様の理由であり、その下から2

番目3番目の地域住民代表2人については、現在人選中である。本来であれば全員の名前を記載してここにお諮り申し上げるところであるが、本日はここに記載の方々及び両校の学校長の先生方に関して、委員の任命をお願いしたく、川西小学校の人選中の2名の方については4月の定例会において改めてお諮りしたいと考えている。

萱津委員

質問であるが、浦里小学校では2名学識経験者を入れてあり、川西小学校は地域住民の方だけになっているが選任の基準はその地域によるのか。それとも全ての小学校、大体どのぐらいの割合でどういう人たちを入れるということが決まっているのか。

長田学校教育課長

今回お願いする両校は学校運営協議会ということで国型のコミュニティスクールの学校運営協議会の委員である。市内でこの形態をとっているのはこの2校のみであり、残りの小中学校は信州型のコミュニティスクールということで、これとは別の組織立てになっている。

選出区分に関しては、学識経験者や地域住民保護者等の中からということであり、両校の今の協議会の委員の中から選出区分の中で地域に合った選出方法で選出していただいている。浦里小学校の学識経験者の方もおふたりとも地域の方である。特段学識経験者何名という規定を設けていないので、その選出区分の中で地域の実情に応じて選出している状況である。

酒井教育長

続けてあるか。よろしいか。ただいまの件について、ここに記載されている方に任命するというところでよろしいか。

○全員了承

(5) 上田市文化財保護審議会委員の委嘱について（生涯学習・文化財課）

○資料3の2により上原生涯学習文化財課長説明

上田市文化財保護審議会については文化財保護法および上田市文化財保護条例に基づいて、上田市の文化財の保存および活用に関する事項について調査および審議することを任務として設置しているところである。現在の委員の任期が令和7年

3月31日をもって終了することから、新たな委員を委嘱したいということで、教育委員会にお諮りするものである。

新たに委嘱する委員の任期は、令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間とし、定数については、条例において7人以内と規定されていることから、これまでと同人数の7名を委員として選考しているところである。

また、委員選考の考え方については、条例で文化財に関する学識経験のある者から教育委員会が任命することとされている。これを踏まえて、表に記載の各分野に精通されている皆様方から多彩な御意見をいただきたいとして委員を選考しているところである。選考した委員の氏名等については記載の通りである。

木口委員

先ほどの運営学校運営委員会の方でも期数が長い方がいらっしゃったが、文化財保護審議会は市の審議会として、期数として9期だと18年。7期の方も2名いて、今年度で14年になる。代わりになるような方がいないぐらい専門性が高いというのはあるかと思うが、どうしても会の中で長期いる方が全体の空気みたいなものを作りがちになってしまったり、期の短い方が意見を言いにくくなったりということがなきにしもあらずだと思う。ある程度期数の上限みたいなものを考えていった方がいいのではないかと思った。

この後の議題にもなっているところもそうであるが、全体としてそういう委員の方の期数の上限というのは少し考えていく必要があるかと考える。

上原生涯学習・文化財課長

庁内のこのような審議会委員を選考するときに、庁内の選考委員会がある。そこでも一定のルールがあり、上限規制があり一応3期までとさせていただいているが、文化財に関しては、やはり専門性が高い部分と上田の歴史の調査に関わってきていただいている方のほうが、諮問したことに関して答申して頂く委員としてふさわしいというところがあり、継続してお願いしている。ただ、長期に及んでいることは実際であり、委員の皆さんが高齢にもなってきていることもあるので、随時その後任となるような委員の候補を調べながら、人材と時期を見計らっていきたい。

木口委員

やはり長くなってくると逆に変わってもらうのを言い出しにくくなると思うし、今、時代の流れも速い中で、視点が固定化されてしまったりすることも考えられる

のでそういった面も含めて、また検討していただきたい。

酒井教育長

続けて御意見あるか。よろしいか。なければ資料にある皆様に委嘱するということでもよろしいか。

○全員了承

(6) 上田市図書館協議会委員の委嘱について（上田図書館）

酒井教育長

上田市図書館協議会委員の委嘱についてであるが、今回の議題は取り下げをお願いしたい。

(7) 上田市博物館協議会委員の委嘱について（市立博物館）

○資料5により坂部市立博物館長説明

こちらの審議会委員については、博物館法第21条及び上田市博物館条例第13条の規定により、委員を委嘱するものである。

任期については、令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間である。こちらについては、条例第13条の中に10名以内で委嘱ということである。今回は団体推薦ということで3名、個人依頼で7名、合計10名の皆さんにお願いをしている。

団体推薦においては、それぞれ郷土史研究の団体等から推薦をいただき、この3名となっている。個人依頼については、博物館運営の専門であるとか、上田城城跡公園の中の観光ガイドをされていた方、あるいは学識経験者ということで、他課の学芸員の皆さんにお願いをするところである。こうした学芸員の皆さんにお願いすることによって、先ほど大久保委員からもお話があったように、展示の技術とか手法なども教えていただきながら、今後の博物館運営に生かしていきたいという趣旨からお願いをしている。

酒井教育長

ただいまの件について教育委員の皆様から御意見あるか。

なければ資料にある皆様に委嘱をするということでもよろしいか。

○全員了承

3 報告事項

(1) 「第37回いのち・愛・人権展 うえだ人権フェスティバル」の実施報告について (生涯学習・文化財課)

○資料6により久保田人権同和教育政策幹説明

去る2月15日、西部公民館にて「第37回うえだ人権フェスティバル」を開催し、約500人の市民の皆様に御参加いただいた。

内容については、記載の通りであるが、人権作品の表彰式と展示等では、子ども達の御家族をはじめ、多くの方に来ていただいた。

また、人権講演会では、水平社博物館の駒井忠之館長を講師に、若い世代の視点から水平社宣言を読み解き、今後の展望について語っていただいた。改めて人権を考えるきっかけになったのではないかと考えている。

また全体を通して来庁者からのアンケート結果では大変好評であった。次年度についても人権問題等自分の身近な場所で触れるきっかけとするため、人権作品の受賞者の作品や人権啓発推進委員会が作った人権啓発資料の展示などを通して様々な人権課題等を考える機会を作り、市民の人権意識の向上に繋げていきたいと考えている。報告については以上である。

大久保委員

アンケートの感想を見るといい内容だったという声をたくさんいただいているので、来年度以降、開催の時には参加しやすさに配慮した企画をしていただきたいと思います。来てくださった方は、得るものがたくさんあったりしてお帰りになると思うので、より多くの方に来ていただけるような工夫をぜひお願いしたい。

(2) 特別展「ハッケン！上田の仏像」実施報告について（生涯学習・文化財課）

○資料7により上原生涯学習・文化財課長説明

この特別展については、以前の定例会でも開催について御説明したところであるが、平成28年度から6年間をかけて実施した「仏教美術悉皆調査」の中で、新発見・再評価されるに至った古代・中世の仏像を中心に、上田の仏教文化にゆかりの深い市外の貴重な仏像など、国重要文化財や長野県宝、上田市指定文化財を含む多くの文化仏教文化財を紹介する上田市初の仏像の大規模展として、開催し終了したところである。

展覧会の概要は記載の通りである。8,637人という大勢の方々の入館があり、観覧をいただいた。

また、併せて出品作品全68点の仏像写真や解説調査の概要などをまとめた展覧会図録を発行した。定価2,500円で販売し、最終日の3月9日現在で875冊の販売があった。

関連事業についても、この展覧会開会中に合わせていくつか開催した。裏面を御覧いただきたい。監修者講演会をはじめ、調査や本展覧会に御協力いただいた先生方に講師をお願いし、それぞれの専門的な視点から仏教美術や仏像についての解説のほか、調査時のエピソードなども交えて講演をしていただき、こちらの関係イベントについても大変好評であった。

観覧者の皆様からは、仏教美術の魅力を体感することによる感動の声をたくさんいただいた。アンケートからもこの地域の新たな魅力を発見する機会となったことを感じ、この展覧会・関連事業も含めて、成果と捉えているところであり、上田市文化財保存活用地域計画の基本目標に掲げる上田の歴史文化を未来に紡ぐ誇りある地域作りに繋がるものと考えているところである。

大久保委員

こちらの企画は本当に大成功を取めた事例の一つになると思う。集めた仏像の数とか、図録も本当によくできたものを作ってください、私も見に行かせていただいたが、サントミュージゼに車がたくさん停まっているので、何のイベントだろうと思ったら仏像展に来た方だった。たくさんの上田の方々が見に来てくださっていて、本当に素晴らしい企画だったと思う。今後も文化財の公開などをする時のひとつの成功事例になると思うので、これに倣って、今後もこういった素敵な企画を立てていただきたいと思った。

安達教育長職務代理

大久保委員に続けてであるが、ディスプレイも素晴らしかったし、とても良かったと思う。展示に関わった学芸員などの皆さん、大変なご苦労だったと思うのでぜひ労っていただきたいと思う。

酒井教育長

そのほか御意見あるか。よろしいか。

報告事項について事務局からの説明は以上となる。(3)から(11)まで事務局からの説明はないが、委員の皆様から御意見御質問あればお願いしたい。

木口委員

資料9の学校などの人権同和教育の実践の冊子拝見させていただいた。どの学校も性の多様性のことや障害者のこと、吃音のこと、「さん・くん」付けをテーマにしたことなんていうのも面白いと思った。いろんな形でいい取組を実践されていることがわかってよかったが、先ほど萱津委員からもお話があったように、ぜひ今後取り組んでほしいと思うのは、子どもの権利条約についてである。取り上げている事例がなかったので、子どもの権利というと、子どもが権利ばかり主張して学校現場でもやりにくくなってしまふみたいなことであつたり、子ども同士でも権利の誤解であつたり、誤用や乱用でトラブルの元になってしまうのではないかみたいな気持ちが働くのではないかと思うが、権利のことを勉強するというのは子どもにとっていいことだと思うので、今、子どもの権利条約が発行されて、それについての取組を学校でぜひやってほしいと私は思っているので、新年度、少し働きかけなどあれば、お願いしたいと思う。

安達教育長職務代理

共催等事業（資料14）に関わつてであるが、195番の年10回4万6000円、例えばラグビーを教えるとかそういうものが万単位で、当然参加チームということなのでしようがないと思うが、これに参加するのは子どもだと思う。当然それでお金儲けしているようなところには共催等はしないと思うが、何かそういう規定はないのか。自分の子どもがここに行くと言つたとき4万6000円は少し引かかる。上田市教育委員会の名前ついている。そういう規定はあるのか。

上原生涯学習文化財課長

確にかかるとは徴収していただくのはいいが、後援する上で営利目的のことに関しては控えさせてはいただいている。この4万6000円に関しては、1年間通じたカリキュラムとして、総合の活動を組まれている。毎月のようにある活動でこれだけの会費を必要としていると解釈している。実際の中身にどれだけ経費がかかつて4万6000円かということまでは、収支計画を出してはいただいている。確定している中で後援させていただくものは問題ないという解釈でいる。

萱津委員

資料9について、先ほど、木口委員がおっしゃつたように、子どもの権利条約は子どもが権利ばかり主張して困るというものではなく、子どもなりの意見を言つて

いいし、大人はそれを叶えられるかどうかは別として、聞くことが必要だというのが権利条約なので、やりにくくなるということではない。その本質を理解しないと、子どもは「自分は生まれたときから権利があって大事な存在なんだ」ということを理解できないで育ってしまうことの方が問題だと思う。その辺も取り入れていただければと思う。

もう一つは、この冊子のところで「なかよし」というが多く出てる。前提として仲良しでないと駄目なのかと。むしろ学校で様々な意見があってその中で意見交換し合い、折り合うというプロセスをぜひ大事にさせていただけたらと思う。

あと、2校で車椅子体験があった。車椅子体験の授業を私も講師としてやったことがあるが、車椅子体験をした後、車椅子の扱い方を理解すると同時に、注意しなければいけないのは、「自分達は障害がなくてよかった」、「障害者は可哀そうで、不自由だ」という単純な感想が出てきてしまうことがとても問題である。車椅子体験をやった後のフォローはしっかりしないと逆効果になってしまう。最近は車椅子体験が減ってきてはいるが、そのフォローがちゃんとできる体制をとっていただけたらと思う。

安達教育長職務代理

前半のところにも出てきたように、提出物とか、そういうことに関わって、この「学校等人権同和教育の実践」も学校の先生が苦勞して、2ページにまとめてくださっていると思う。容量が少ないほど、まとめる方が苦勞する。実践記録集というのではなく、何か少しでも負担が軽減されて学校のやっていることがわかるような形に変えられないかなと思う。ずっとこのタイプで来ていると思うが検討してもらいたい。

酒井教育長

続けて御意見あるか。よろしいか。

4その他として事務局から連絡等あるか。

委員の皆様から何かあるか。

以上で3月の定例会を終了する。